

～ITや便利/支援グッズ活用で生活支援～

もの忘れ対処塾

兼：もの忘れサポーター養成講座 裏面参照

認知症に前向きに備えよう！

高齢者のもの忘れは避けられませんが、最近はその忘れを防ぐ日記帳やメモ帳、服薬時間を教えてくれる機器、財布などの探し物発見器など、多くの便利/支援グッズ (Assistive Technology: AT) が出てきました。



これらのATを学び、もの忘れがあっても自立した生活を目指します。皆で生活上の工夫も楽しく話し合います。どなたでも参加できます。

日時 2024年6月2日(日)
6月9日(日)
13時～16時半

内容 2日間の内容や感想は別紙参照
両日参加が原則です。
対象 一般市民、医療・介護関係者、ご本人・ご家族、認知症サポーターなど

場所 蘇我コミュニティセンター（蘇我駅徒歩3分）
<https://sogacc.jp/community/access/>

受付人数 先着25名 **参加費** 1,000円

申し込み方法 申し込み締め切り 5月24日

下記URLまたは、右のQRコードから申込フォームに移動し、必要事項を記載の上お申し込みください。

<https://qr.paps.jp/egymn>



お問い合わせは yasukiyo.12@outlook.jp まで

講師



安田 清 言語聴覚士（博士）
京都府立医科大学客員講師 神戸大学客員教授 斎賀医院（市原市）
元千葉ろうさい病院リハビリ科もの忘れ外来に従事
著書「MCI・認知症のリハビリテーション: Assistive Technology
による生活支援」「新記憶サポート帳」エスコアール社など

主催 もの忘れサポーター養成講座実行委員会
共催 京都府立医科大学附属認知症疾患医療センター

もの忘れ対処塾の内容と進め方

以下の便利/支援グッズやその活用法、認知症への備えなどを2日間で学びます。

日程	章	テーマ
1日目	1 2	認知症の話、予防説の検証や各種治療法の医学的信頼性
	3	対認知症準備活動、生活工夫集、見守り協定書等
	4	火元・水回り、見守り、金庫、鍵などの安心安全グッズ
	5	服薬器、もの探し器、持ち忘れ防止器、音声案内器など
	6	もの忘れ・認知症の人向けの専用日記帳、暦、伝言板
	7	すぐ書き込めるなどの各種もの忘れ対応メモ
	2日目	8
9		もの忘れを防ぐベスト、ワイシャツ、カバンなどの服飾類
10		パソコン、タブレットによるテレビ電話や会話支援
11		スマホの活用、これからのハイテク機器
12		音楽療法、回想法、人形、認知症支援犬など
13		もの忘れサポーターに期待される活動と社会的支援

もの忘れサポーターとは？ (Memorysupporter.jimdofree.com 参照)

この会で習った便利/支援グッズや活用法を地域の高齢者などに伝達することが期待される、初めての資格です。終了後、希望者はもの忘れサポーター3級の検定試験を無料で受験できます（メールで送られた質問用紙を資料をみながら回答）。

より深く学びたい方は安田清：「MCI・認知症のリハビリテーション：Assistive Technologyによる生活支援」と、亀山裕美：「家族の認知症ケアがわかる本」を（ともにもの忘れサポーター2級試験の参考書）

まとめ

高齢になるともの忘れや認知症は必ず出てきます。前向きに対処法を知り準備することで、シニアライフを楽しめるものにしましょう。履修者はその知識を他に伝えてくれることが期待されます。当もの忘れ対処塾の内容は他にない試みです。お誘いあわせの上、お気軽にご参加ください。

2023年2月のもの忘れ対処塾 第1回目の参加者の感想



自分にとって、すぐ目の前にある重要課題です。大変面白く役に立ちました。周りも巻き込んで備えたいと思います。

(講師は)本当に多方面にわたって、考え、工夫しておられるのだなと改めて感じて、凄いなーと思っております。

私も78歳、いろんな方法で物忘れ対策ができそうです。(中略)。手帳の使い方、ポストイットの使い方のアイデアもありいろんな

場面での使い方を考えていくうえで、大変勉強になりました。とてもわかりやすく親しみやすい講義でした。二日目が参加できなかったのが残念でしたが動画を送ってくださり嬉しく思いました。

自分を含め家族が高齢化し、もの忘れは日常的な問題となってきました。多くの情報を得ることができて大変ありがたかったです。

便利グッズの種類がとても多く、様々な場面で使えることに驚きました。これだけのグッズがあれば、認知症になっても使い方だけで生活のなかでの不安が軽減され、家族としても心強いのではないかと思います。